

市町村名		多良間村									
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	1-	美化緑化推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ					
担当部課名	観光振興課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備					
事業内容	快適な観光地を形成するために、観光関連施設や周辺道路の美化・緑化を行う。										
効果発現年度	当年度		後年度(年度)								
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他( )					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
		(a)当初予算額	7,068	6,742	6,457	7,613	8,136				
		(b)予算現額	4,727	4,308	2,782	4,525	4,626				
		(c)増減額(b-a)	2,341	2,434	3,675	3,088	3,510				
		(d)繰越額	-	-	-	-	-				
	A.計(b+d)		4,727	4,308	2,782	4,525	4,626				
	B.執行済額		4,727	4,308	2,782	3,118	2,732				
	うち交付金充当額		3,781	3,446	2,225	2,494	2,185				
	次年度繰越額		0	0	0	0	0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	68.9%	59.1%				
予算の状況の説明		当初、4名の作業員による事業を実施予定であったが、欠員により配置出来ない期間が生じ、事業規模を縮小して実施したため、3,510千円を減額した。また、予算減額後の期間において、作業員の確保に努めたものの、配置出来ない期間が生じたことにより不用額が生じた。									
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況								
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
	公園9カ所の美化・緑化を実施し、観光客等が気持ちよく利用できるように取り組む。		目標	( 美化・緑化の実施 )	( 公園9カ所の美化・緑化の実施 )	( 公園9カ所の美化・緑化の実施 )	( 公園9カ所の美化・緑化の実施 )				
			実績	美化・緑化の実施	公園9カ所の美化・緑化の実施	公園9カ所の美化・緑化の実施	公園9カ所の美化・緑化の実施				
			目標	( )	( )	( )	( )				
		実績									
達成状況説明		作業員を配置出来ない期間が生じ、事業規模を縮小して実施した。									
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)				
	観光地周辺の景観形成及び道路環境について、観光地としてふさわしい景観及び道路環境であると感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方についてアンケート調査により検証する。		目標	( )	( )	( 80% )	( 80% )	( )			
			実績			76%	88%				
	【参考指標】観光関連施設及びアクセス道路の美化・緑化の実施。農村公園、ふるさと海浜公園八重山遠見台、ミッジ公園等9箇所		目標	( )	( 9カ所 )	( 9カ所 )	( 9カ所 )	( )			
			実績		9カ所	9カ所	9カ所				
進捗状況説明		観光地としてふさわしい景観及び道路環境であるかの満足度調べにおいては、1月から3月迄の期間、空港、夢パティオたらまの2カ所で満足度調査を実施した結果、満足した人が88%となり、目標を達成する事ができた。									

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光地としてふさわしい景観及び道路環境であるかの満足度80%以上となり目標を達成したが、年間を通して固定した作業員の確保が出来ず、実施地区の通年における美化緑化を達成するために時間を要した。	雇用の形態に柔軟性を持たせ、多様性を受け入れられる体制で作業員を確保し、観光関連施設や周辺道路の美化緑化を図る。
今後の取り組み方針		
年間を通して4名の作業員が確保出来なかった為、事業者へ業務を委託する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	2,732	2,732	2,185	547	0
<pre> graph LR     A[多良間村 2,732千円] --- B[賃金 2,268千円]     A --- C[共済費 268千円]     A --- D[需用費 196千円]     B --- E(賃金)     C --- F(社会保険料)     D --- G(消耗品・燃料費) </pre>					

資金の用途の流、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	年間を通して対応できる作業員等であり、妥当であったと考える。 清掃作業に必要な人件費や需用費等であり適正な予算規模と考えられる。 受益者との負担関係は発生しない。 費目・用途については、実績報告時において支出等に関する書類により確認しており適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		多良間村										
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	2-	優良繁殖雌牛導入支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア						
	担当部課名	産業経済課	事業実施(予定)年度	平成27~令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産体制の整備						
事業内容	生産農家の経営の安定化及び良質な肉用牛の改良推進を図る為、優良繁殖雌牛導入を支援する。優良繁殖雌牛を導入する際に購入価格の税抜価格の1/2以内で最高40万円までを支援することにより、母牛の改良を推進する。											
効果発現年度	当年度		後年度(年度)									
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
		(a)当初予算額	4,500		4,500		7,500		8,000		12,000	
		(b)予算現額	4,500		4,500		8,000		8,000		12,000	
		(c)増減額(b-a)	0		0		500		0		0	
		(d)繰越額	-		-		-		-		-	
	A.計(b+d)		4,500		4,500		8,000		8,000		12,000	
	B.執行済額		600		1,800		6,653		7,814		11,939	
	うち交付金充当額		480		1,440		5,322		6,251		9,551	
	次年度繰越額		0		0		0		0		0	
	執行率(%) (B/A)		13.3%		40.0%		83.2%		97.7%		99.5%	
予算の状況の説明		今年度の導入は、30頭予定の30頭が導入されており、不用額の61千円は補助額上限の40万円に満たない個体があったものによる。										
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況									
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度			
	優良繁殖雌牛の導入頭数:30頭		目標	( 15頭 )		( 20頭 )		( 20頭 )		( 30頭 )		
			実績	6頭		17頭		20頭		30頭		
			目標	( )		( )		( )		( )		
		実績										
達成状況説明	今年度の導入は30頭予定の30頭が導入され、目標を達成した。											
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R4年度)					
	優良繁殖牛導入の支援完了:30頭		目標	( )	支援(20頭)の完了	支援(30頭)の完了	( )	( )				
			実績		支援(20頭)の完了	支援(30頭)の完了						
	【参考指標】 導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合111.1%以上		目標	( )	( )	( )	( )	111.1%以上				
			実績									
進捗状況説明	導入進捗率は31.6%、導入頭数は30頭となり目標を達成した。											

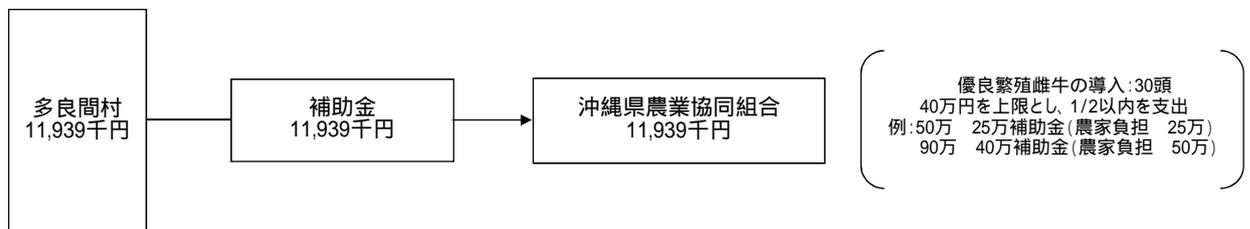
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	農家の要望を年度当初で把握出来た事が目標達成の要因と考えられる。しかし、購買実施主体であるJAと、農家の希望する雌牛の血統の調整に時間を要し導入が遅れた経緯がある。	購買実施主体と農家との導入調整をスムーズに行う必要がある。

**今後の取り組み方針**

農家への説明会や要望調査、購買実施主体との導入調整を早期に行い、スムーズな事業の推進に向けて取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
39,440	11,939	9,551	2,388	27,501



資金の流 れ、費 目・ 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	農業協同組合は県内外での導入実績があり、妥当だと判断 飼養頭数の2%で年間時価保留頭数の1/3程度なので規模 は適正 負担割合は1/2以内としており事業内容から判断しても妥当 と考える 費目・使途については、補助金支出時に検査を実施して あり事業目的に必要な支出と判断
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		多良間村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-	児童生徒島外教育諸活動助成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-1	
担当部課名	多良間村教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 -3-(1)	
事業内容	児童生徒の意識の高揚、スポーツの技術力向上等、未来を拓く子どもたちの能力向上を図る。島外で実施される各種大会へ児童生徒を派遣する。						
効果発現年度	当年度		後年度( 年度)				
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他( )	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a)当初予算額	5,350	5,164	4,725	3,071	5,455
		(b)予算現額	4,592	3,948	4,725	5,603	3,857
		(c)増減額(b-a)	758	1,216	0	2,532	1,598
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)		4,592	3,948	4,725	5,603	3,857
	B.執行済額		3,543	2,552	3,522	5,571	3,773
	うち交付金充当額		2,834	2,041	2,817	4,457	3,018
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		77.2%	64.6%	74.5%	99.4%	97.8%
予算の状況の説明		当初予算で5455千円を見込んでいたが、小学校の大会参加見送りと中学校の音楽発表大会の日帰り等、当初計画どおりの執行ができず1598千円の減額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況			達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	島外で開催される教育諸活動に参加することで、離島の小規模校ではできない他地域との交流や実戦をとおし、精神面の鍛錬・スポーツの技術力向上等が図られる。	目標	( 派遣実施 )	( 派遣実施 )	( 派遣実施 )	( 派遣実施 )	
		実績	派遣実施	派遣実施	派遣実施	派遣実施	
			目標	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	大会26回、派遣延人数247人を派遣。今年度も多くの児童生徒の大会派遣ができ、交通費及び宿泊費の助成が実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が島内ではできない経験をすることができたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について検証する	目標	( )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( )	( )
		実績		89.7%	97%		
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明	派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が島内ではできない経験をすることができたとの回答が97%となり、成果目標を達成した。						

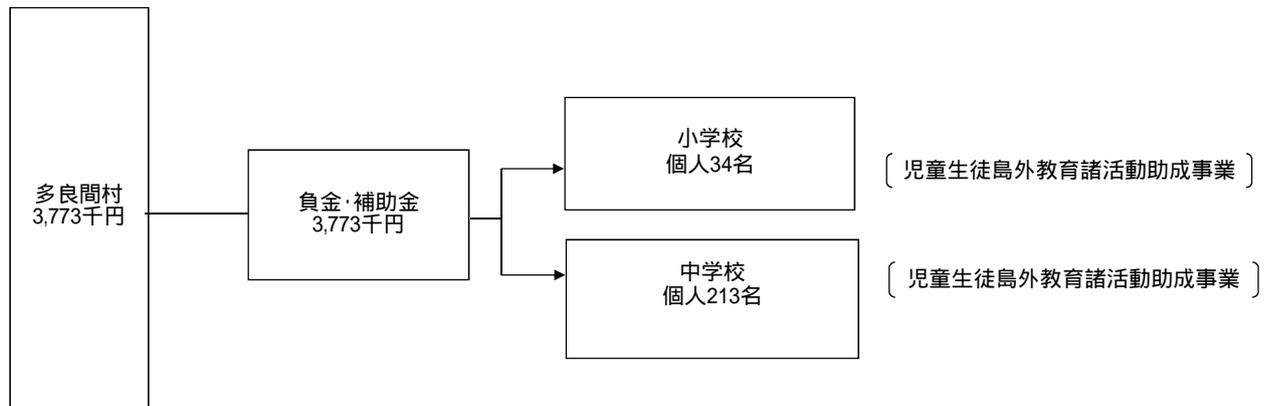
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	児童生徒の教育活動を推進していく上で、島外での大会が主であり、児童生徒を大会に派遣するためには離島が故の保護者の経済負担が大きい。また、一村一校で小規模学校の環境にいる児童生徒にとっては、「大会」は意識向上を高め、能力を開花させるる場所でもあり、精神鍛錬につながる場でもある。そのため、今後も各種大会へ派遣する児童生徒への支援が必要である。	大会期間はほとんどが決まっており、複数の児童生徒を持つ保護者にとって経済負担は大きい。派遣事業を推進する上で、児童生徒の意識向上と保護者への負担軽減に寄与できている。教職員は業務多忙の中、計画的に一連の事務作業を行っており、学校との連携を図りながら速やかに事務処理が進められるよう努める必要がある。

**今後の取り組み方針**

小規模学校の環境にいる児童生徒にとっては、「大会」が能力の開花と意識向上を高め、精神鍛錬にもつながる機会でもある。沖縄本島や宮古島との教育環境には格差があり、多良間村の教育環境は十分とはいえず、その格差を近づけるためには、今後も各種大会へ派遣する児童生徒への支援が必要であり、保護者の経済負担にもつながっているため、今後も派遣助成をしていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,773	3,773	3,018	755	



資金の 用途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・小体連、中体連、引率者の派遣事業等に限定しているため、支出先の選定方法は妥当である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算額も事業内容に見合った執行となっており、適正な規模であった。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者負担として、補助金上限額を超える分は負担してもらっている。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については、精算段階で、検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		多良間村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 -	学力向上推進ALT活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	多良間村教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成27~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 - 3 - (1)	
事業内容	国際化社会に対応できる児童生徒の学力向上を図るため、ALTを招聘し国際感覚を養いながら児童生徒の英語力の向上を図る。						
効果発現年度	当年度		後年度( 年度)				
実施方法	直接実施		委託		補助 負担 その他 ( )		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a)当初予算額	394	788	788	788	788
		(b)予算現額	394	788	788	788	788
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)		394	788	788	788	788
	B.執行済額		394	784	787	787	744
	うち交付金充当額		314	627	629	629	595
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.5%	99.9%	99.9%	94.4%
予算の状況の説明		当初の計画通りで、想定内の予算執行状況であった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	外国語指導助手(ALT)招聘年間20回		目標 ( 20回の招聘 )	( 20回の招聘 )	( 20回の招聘 )	( 20回の招聘 )	
			実績 20回の招聘	20回の招聘	20回の招聘	20回の招聘	
			目標 ( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	外国語指導助手(ALT)を年間20回招聘し活用することにより、外国語活動や英語の時間を通して英語に対する興味・関心を喚起し、理解を深めることにより、国際社会に対応できる国際感覚を養いながら児童生徒の学力向上に繋げることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	・小学校 英語に対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、対象児童へのアンケート調査により当該事業のあり方を検証する。		目標 ( )	( 80% )	( 80% )	( )	( )
			実績	81%	83%		
	・中学校 英検の合格率50%以上		目標 ( )	( 50% )	( 50% )	( )	( )
			実績	56%	58%		
進捗状況説明	小学5・6年生を対象にアンケート調査を行った結果、83%が「英語に対する興味・関心が高まった」と回答し、目標を達成した。中学校生徒の英検の合格率が58%となり、目標を達成した。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語に対する興味・関心は高まっているが、いまだに外国語活動や英語の授業において、児童生徒のコミュニケーションを図ろうとする態度に二極化がみられる。</li> <li>去年に比べて減ってはいるが、児童生徒の英語力に二極化があるため、外国語活動や英語の授業において難しいと感じる児童生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校では、徐々に英語に慣れ親しむといったステップを踏んだうえで「英語の音声と文字との関係を学ぶ」授業カリキュラムを展開する必要がある。また、中学校では、小学校の外国語活動の授業パターンや活動内容を十分に把握し、新たに文字を扱うことによる「文字への抵抗感」をなくすような授業づくりをする必要がある。</li> <li>英語に対する興味・関心及びコミュニケーション能力をさらに高めてもらうため、これまでの事業内容を振り返り、授業内容の工夫やALTの資質向上を図り、学校現場でのより効果的な活用について検討する必要がある。</li> </ul>

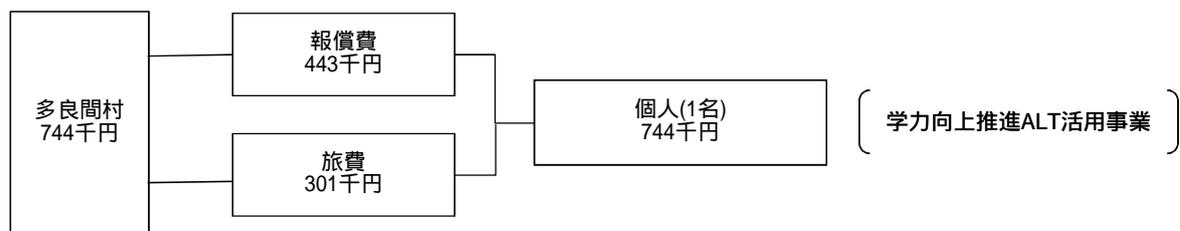
**今後の取り組み方針**

・小学校では、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に加え、英語の音声と文字との関係を学ぶ指導の充実を図る。また、中学校では、中学校英語教諭が小学校外国語活動の授業パターンや活動内容を十分に把握し、小学校と同様に「聞くこと・話すこと」の活動への評価のフィードバックの徹底を図り、また、新たに文字を扱うことによる「文字への抵抗感」をなくすような授業カリキュラムの推進を図る。

・小中合同授業研究会の中で行われた、ALTの資質向上のための取り組み、授業内容の工夫についての話し合いの回数を増やすことで、ALTの有効活用の充実を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
744	744	595	149	0



資金の流 れ、費 目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	外国語指導助手(ALT)は、調査及び考慮の上選定しており、妥当であると考えます。 不用額はなく、適正な規模と考える。 費目・使途は予定通りで、目的に即した適正なものであった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		多良間村										
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	3-	村営学習塾開設事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ							
	担当部課名		多良間村教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 - 3 - (1)					
事業内容	学校外の学習環境を整備することで、学力の向上を図るため、村営の学習塾を開講する。											
効果発現年度	当年度		後年度( 年度)									
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		
		(a)当初予算額	16,362	15,012	15,100	15,100	15,100	14,879				
		(b)予算現額	16,362	15,012	15,100	15,100	14,879					
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	221						
		(d)繰越額										
	A.計(b+d)		16,362	15,012	15,100	14,879						
	B.執行済額		15,012	15,012	15,012	14,879						
	うち交付金充当額		12,009	12,009	12,009	11,902						
	次年度繰越額											
	執行率(%) (B/A)		91.7%	100.0%	99.4%	100.0%						
予算の状況の説明		当初の計画通りで、想定内の予算執行状況であった。なお、221千円の減額は入札残である。										
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況									
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度			
	村営学習塾の開設		目標	( 開 設 )	( 学 力 向 上 )	( 開 設 )	( 開 設 )	( 開 設 )	( 開 設 )			
			実績	開 設	学 力 向 上	開 設	開 設	開 設				
			目標	( )	( )	( )	( )	( )				
		実績										
達成状況説明	村営学習塾を開設して、効果的に学習できる環境を整えるとともに、学校外学習支援を強化すること、学びたいと希望を持つ児童生徒を受け入れることで児童生徒の学力向上に繋がった。											
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)					
	沖縄県学力到達度調査における、県と本村学習塾受講生との平均正答率の差		目標	( )	( 小 学 校 - 8P 以上 / 中 学 校 - 13P 以上 )	( 小 学 校 - 8P 以上 / 中 学 校 - 13P 以上 )	( 小 学 校 - 5P 以上 / 中 学 校 - 6P 以上 )	( )				
	・小学校(国語・算数) - 5ポイント以上		実績		小学校 - 4.2P / 中学校 + 4.0P	小学校 - 5.2P / 中学校 + 5.7P	小学校 - 4.8P / 中学校 - 2.2P					
	・中学校(国語・数学・英語) - 6ポイント以上											
	【参考指標】 高等学校入学者選抜学力検査全員合格		目標	( )	( 受 験 生 全 員 合 格 )	( 受 験 生 全 員 合 格 )	( 受 験 生 全 員 合 格 )	( )				
		実績		受 験 生 全 員 合 格	受 験 生 全 員 合 格	受 験 生 全 員 合 格						
進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査における県と本村学習塾受講生との平均正答率の差については、小学校(目標:-5P以上 実績:-4.8P)、中学校(目標-6P以上 実績:- 2.2P)となり、目標を達成した。											

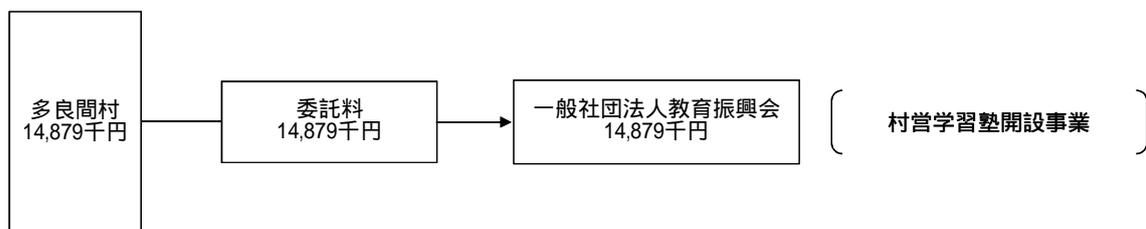
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や部活動等の関係で村営学習塾の出席率が低くなる場合があるため、出席率アップのための改善策を検討する必要がある。</li> <li>・児童生徒の学力に二極化がみられ、また、児童生徒によって学習ニーズが異なるため、均一的な授業だけではなく、児童生徒の学力に応じた授業カリキュラムを検討し、全体の底上げを図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村営学習塾の開講日程について、学校側で考慮してもらえよう、小学校及び中学校それぞれの部活動や学校諸行事等を調整する必要がある。</li> <li>・児童生徒の学力に応じた授業カリキュラムを実践することで、基礎学力の定着に繋がってきてはいるが、まだまだ児童生徒の学力に二極化がみられることを考えると、更なる充実・推進を図る必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・村営学習塾の出席率向上に向けて、学校側と情報の共有及び協働体制の構築を図る。  
 ・更なる基礎学力の定着と学び残しをなくすため、また、今まで以上の全体の底上げを行うため、効果的に学習する環境の整備の充実及び授業内容の工夫・改善を図る。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,879	14,879	11,902	2,977	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 不用額はなく、予算規模は適正な規模と考える。 教材費は受益者に負担してもらっており妥当である。 支払いの度に検査を行い、目的に即し、必要なものと判断する。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		多良間村										
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	3-	多良間中学校グラウンド全天候型改修事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-1						
担当部課名	教育委員会 教育課		事業実施(予定)年度	平成29~令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 - 3 - (1)						
事業内容	雨天後のグラウンドの環境の悪化による大会の中止等をなくすため、多良間中学校グラウンドを全天候型に改修し、児童生徒や村民等の体育環境を改善する。											
効果発現年度	当年度		後年度( R2年度)									
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		
		(a)当初予算額	5,743		133,368		118,932					
		(b)予算現額	4,752		19,919		112,076					
		(c)増減額(b-a)	991		113,449		6,856					
		(d)繰越額	-				0					
	A.計(b+d)		4,752		19,919		112,076					
	B.執行済額		4,752		19,861		110,888					
	うち交付金充当額		3,801		15,888		88,710					
	次年度繰越額		0		0		0					
	執行率(%) (B/A)		100.0%		99.7%		98.9%					
予算の状況の説明		入札残が生じたことから、工事費等を(6,856千円)減額した										
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況									
			H29年度		H30年度		R1年度		R2年度			
	施設整備工事の実施		目標	( 実施設計の作成 )		( 施設整備工事の実施 )		( 施設整備工事の実施 )		( )		
			実績	実施設計の作成		施設整備工事の実施		施設整備工事の実施				
			目標	( )		( )		( )		( )		
		実績										
達成状況説明	今年度計画していた施設整備工事を実施することができ目標を達成した。											
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)					
	整備工事の完了		目標	( )	( 実地設計の作成完了 )	( 一部施設整備工事の完了・排水整備 )	( 整備工事の完了 )	( )				
			実績	/	実施設計の作成完了	一部施設整備工事の完了・排水整備	整備工事の完了	/				
	[R2成果目標] 村内で開催する大会の雨天後のグラウンド環境の悪化による中止・日程変更等の回数 0回		目標	( )	( )	( )	( )	0回				
			実績	/								
進捗状況説明	今年度計画していた施設整備工事を実施することができ目標を達成した。											

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当初は、施設整備工事を含め単年度での工事完了見込みであった。その後、ゴム資材等の価格が当初の想定よりも高額であることがわかり、全体事業費が増加したため、単年度での工事完了が困難となった。	事業計画を見直し、工期を複数年度に分割した。
今後の取り組み方針		
次年度は、事業最終年度となるため、予定どおり事業完了とするため適正な執行管理を心がける。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	111,350	110,888	88,710	22,178	462
資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札で剪定しており妥当であったと考えている。 予算額も事業内容に見合った執行となっており、適正な規模であった。 費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。		
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			
		受益者との負担関係は妥当であるか。			
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名		多良間村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-		多良間村就業意識向上支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(4)-工	
	担当部課名		多良間村教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成30～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	公平な教育機会の確保等
事業内容	<p>小学6年生を対象に、沖縄本島(那覇市)を中心に企業を訪問して「ジョブシャドウイング(観察型キャリア教育)」を実施する。          中学1年生を対象に、多良間村、宮古島市を中心に「中学生多良間村課題解決プログラム」を実施する。          中学2年生を対象に、沖縄本島(那覇市)を中心に企業を訪問して「職場体験(体験型キャリア教育)」を実施する。</p>						
効果発現年度	当年度 後年度( 年度)						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a)当初予算額	7,075	7,500			
		(b)予算現額	7,075	7,336			
		(c)増減額(b-a)	0	164			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		7,075	7,336			
	B.執行済額		7,020	7,335			
	うち交付金充当額		5,616	5,868			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.2%	100.0%			
予算の状況の説明		事業は計画どおりに執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R2年度	
	沖縄本島へ小学6年生(10名)、引率者(5名)	目標	(小学6年生(10名))	(小学6年生(10名))	( )	( )	
		実績	小学6年生(10名)	小学6年生(10名)			
	宮古島市へ中学1年生(10名)、引率者(5名)	目標	(中学1年生(12名))	(中学1年生(10名))	( )	( )	
		実績	中学1年生(12名)	中学1年生(10名)			
沖縄本島へ中学2年生(14名)、引率者(5名)	目標	(中学2年生(12名))	(中学2年生(14名))	( )	( )		
	実績	中学2年生(12名)	中学2年生(14名)				
達成状況説明		沖縄本島へ小学6年生(10名)、引率者(5名)、宮古島市へ中学1年生(10名)、引率者(5名)、沖縄本島へ中学2年生(14名)、引率者(5名)を派遣のうえ、就業意識の向上に資する支援を実施し、活動目標を達成した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートで、働くことへの興味・関心が湧いたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標	( )	( 80% )	( 80% )	( )	( )
		実績		75%	79%		
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明		キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートの結果、働くことへの興味・関心が湧いた児童生徒は、79%(小学校80%、中学校79%)となり、目標達成に近づいた。					

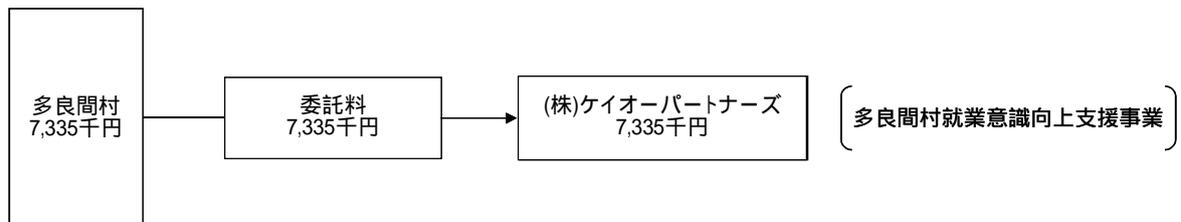
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村内では、企業や職種が少なく、それにより興味・関心及び働くことへの意識が希薄である。</li> <li>・地域に対する興味・関心が薄く、多良間村の現状と課題もわからない児童生徒がいるという現実がある。</li> <li>・自分の将来像を明確に設計せず、島を旅立つ(15の旅立ち)生徒がいるという現状がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学6年生には、数多くの職種に興味・関心を持たせ、これまで以上に働くことへの意識付けを行うとともにキャリア教育の充実を図る必要がある。</li> <li>・中学1年生には、地域への愛着と誇りを持ってもらい、多良間村内の職業及び現状と課題を知る中で、中学生なりに分析することにより、地域について興味・関心を深めてもらうためのキャリア教育に力を入れる必要がある。</li> <li>・中学2年生には、村内にない業種や職種にふれ、村内の業種や職種との違いや共通項に気づき、村内外の産業や職業への理解を深めてもらい、将来の夢、生き方、進路等の選択に生かしてもらうための機会を増やすことでキャリア教育の推進・構築を図る必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・職業観及び勤労観の喜びを深めるため、就業意識の向上のため、産・官・学が一体となった協働体制の構築を図る。
- ・多良間村の現状と課題を把握するためにキャリア教育の推進・充実を図る。
- ・地域に還元できる児童生徒の育成のため、人材の還流を図る。
- ・今後も継続的にキャリア教育を行うことで、児童生徒の就業意識の向上を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
7,335	7,335	5,868	1,467	0



資金の流 点 検 評 価 目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 不用額がほとんどなく、予算規模は適正な規模と考える。 支払いの度に検査を行い、目的に即し、必要なものだと判断する。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		多良間村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-		多良間村自然文化継承事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3-1-(4)-ア	
	多良間村教育委員会 教育課		事業実施(予定)年度	平成30～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
担当部課名						- 3 - (2)	
事業内容	多良間村の自然文化継承の保存のため、郷土資料の整理活用業務、自然図鑑の制作、方言副読本を制作する。						
効果発現年度	当年度		後年度( R4年度)				
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他 ( )	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		(a)当初予算額	19,589	16,967			
	(b)予算現額	19,589	16,351				
	(c)増減額(b-a)	0	616				
	(d)繰越額	-					
	A.計(b+d)	19,589	16,351				
	B.執行済額	19,532	16,351				
	うち交付金充当額	15,625	13,080				
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	99.7%	100.0%				
予算の状況の説明	当初の計画通りで、想定内の予算執行状況であった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	郷土資料、貴重資料等の修復、デジタル化及び公開	目標	( 実施 )	( 実施 )	( )	( )	
		実績	実施	実施			
	自然図鑑の制作	目標	( 実施 )	( 実施 )	( )	( )	
		実績	実施	実施			
達成状況説明	郷土資料、貴重資料等の修復、デジタル化及び公開、自然図鑑の制作を実施し、活動目標を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R4年度)
	郷土資料の修復・複製本作成完了 郷土資料の電子化完了	目標	( )	( 完了 )	( 完了 )	( )	( )
		実績		完了	完了		
	自然環境の調査完了(動植物)	目標	( )	( 完了 )	( 完了 )		
		実績		完了	完了		
	[R4成果目標] ふるさと民俗学習館の村民利用者数177人以上	目標	( )	( )	( )	( )	( )
ふるさと民俗学習館の観光客利用者数652人以上	実績					177人以上 652人以上	
進捗状況説明	所蔵資料の修復と複製本作成及び電子化データの作成完了(2期/4期)、自然環境の調査完了(2期/3期)、計画どおりに完了し、成果目標を達成した。						

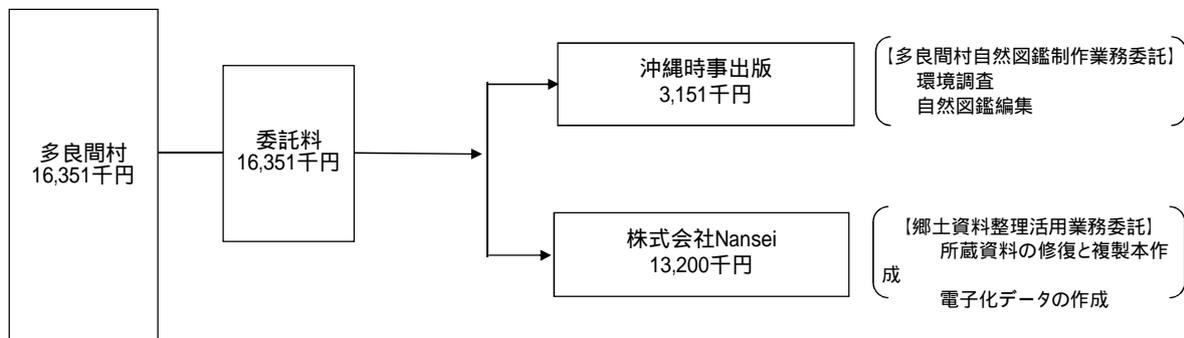
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>所蔵資料の修復を計画的に進めることが求められる。</li> <li>自然環境(2期/3期)分の調査資料に関するとりまとめを進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所蔵資料の修復に関する優先順位を再検討する必要がある。</li> <li>自然環境(2/3期)分の調査資料のとりまとめに向けて、監修委員に意見を求め、掲載内容とレイアウトを検討する必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・所蔵資料の修復に関する優先順位を検討し、複製本及び電子化データの作成を進める。  
 ・自然環境(2期/3期)の調査資料のとりまとめに向けて、掲載内容とレイアウトの検討を進める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
16,351	16,351	13,080	3,271	



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 予算額も事業内容に見合った執行となっており、適正な規模であった。 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		多良間村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4- 多良間村自動車航送負担コスト軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(11)-ア		
	交通・生活コストの低減		沖繩振興基本方針該当箇所		- 9		
担当部課名	総務財政課		事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度			
事業内容	離島住民の利便性を確保するため、高額である多良間島 宮古島間のフェリー自動車航送に係る運賃補助を実施する。						
効果発現年度	当年度		後年度( 年度)				
実施方法	直接実施		委託		補助		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,986	1,574	1,574	1,574	1,574
		(b)予算現額	986	1,079	1,169	1,178	1,112
		(c)増減額(b-a)	2,000	495	405	396	462
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)		986	1,079	1,169	1,178	1,112
	B.執行済額		389	932	952	965	916
	うち交付金充当額		311	745	761	772	733
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		39.5%	86.4%	81.4%	81.9%	82.4%
予算の状況の説明		実績を踏まえて、当初予算を計上したが11月末時点で利用実績が当初の予想を下回っていたため、462千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	宮古島 多良間島間の自動車航送コスト負担の軽減	目標	( 軽減 )	( 軽減 )	( 軽減 )	( 軽減 )	
		実績	軽減	軽減	軽減	軽減	
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明		年間を通じて運賃補助を実施し、住民の宮古島 多良間島間の自動車航送コスト負担を軽減できた。自動車航送に係る運賃補助の実施台数は前年度71台、今年度は65台であった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	運賃補助によって宮古島へ移動しやすい環境となっているか(80%以上)を含め、島民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	( )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( )	( )
		実績		97.50%	88.30%		
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明		利用者へのアンケートの結果、88.30%の島民が宮古島市へ移動しやすい環境の構築が図られたと回答し、成果目標を達成した。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	前年度に比べて利用者が減っているのは、住民への周知が行き届いていないと考えられる。	本事業の認知度を高めるために、住民への周知をさらに行っていく工夫が必要である。
今後の取り組み方針		
周知用のチラシを作成し、村のホームページだけでなく、自治会の掲示板や広報誌等へ定期的に掲載して住民への周知を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	916	916	733	183	0
<pre> graph LR     A[多良間村 916千円] --&gt; B[補助、負担金 及び交付金 916千円]     B --&gt; C[航路事業者(多良間海運) 916千円]     C --- D["(フェリー車両航送に係る運賃の一部支援)"]           </pre>					

資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先については、航路事業者が1事業者しかいないため妥当である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	実績の状況に応じ年度内で減額を行うなど、事業内容に見合った予算規模となっている。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	利用者も一定の負担をしており、受益者との負担関係は妥当である。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途については実績報告時において支出等に関する書類により確認適正であった。

市町村名		多良間村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	防風林及びほ場境界止壁設置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(4)-ウ-イ)	
担当部課名	土木建設課	事業実施(予定)年度	平成28～令和元年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興 -1-(6)	
事業内容	防風林を保護し、さとうきびの収穫量の増を図るため、ほ場と防風林の境界に止壁を設置する。						
効果発現年度	当年度		後年度( 年度)				
実施方法	直接実施		委託		補助 負担 その他 ( )		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		(a)当初予算額	5,000	35,000	38,000	17,226	
		(b)予算現額	4,806	34,560	38,000	17,226	
		(c)増減額(b-a)	194	440	0	0	
		(d)繰越額	-	-	-	-	
	A.計(b+d)		4,806	34,560	38,000	17,226	
	B.執行済額		4,806	34,560	37,998	18,414	
	うち交付金充当額		3,844	27,648	30,398	14,731	
	次年度繰越額			0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	106.9%	
予算の状況の説明		計画どおり予算執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	止壁を設置する。	目標	( 実施設計の作成 )	( 設置の完了 )	( 設置の完了 )	( 工事の完了 )	
		実績	実施設計の作成	設置の完了	設置の完了	工事の完了	
		目標	( )	( )	( )	( )	
	実績						
達成状況説明		農家との作付け調整を行った事で工事が順調に進み早期完了とする事ができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	止壁の設置完了	目標	( )	( 止壁設置の完了 )	( 進入回数0回 )	( 止壁の設置完了 )	( )
		実績		止壁設置の完了	進入回数0回	止壁の設置完了	
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明		年度内に止壁の設置を完了し、成果目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	農家との事前調整を行うことで発注がスムーズにでき、目標の工事完了とした。	農家との事前調整を行い早期発注をすることで、設置工事完了ができる。また、農家の今期作付けにもつながる。

**今後の取り組み方針**

工事完了後の止壁により、農業機械等の防風林帯への進入防止を徹底し、防風林帯保護につなげる。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
18,414	18,414	14,731	3,683	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	工事請負会社は指名競争入札で選定しており、妥当だと考える。 不用額はなく、適正な規模である。  費目、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要と判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	